

気候を変動させる要因

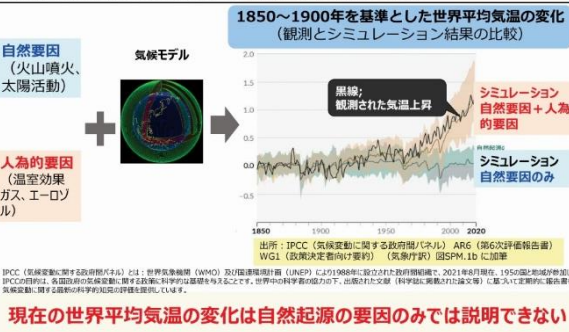
- 異常気象とは：過去に経験した現象から大きく外れた現象のことを言います（普段の天候とはかけ離れた極端な気象のことです）。大雨や暴風等の激しい数時間の気象から、数か月も続く干ばつ、極端な冷夏・暖冬まで含まれます。気象庁では、気温や降水量などの異常を判断する場合、原則として「ある場所（地域）・ある時期（週、月、季節）」において30年に1回以下で発生する現象と定義しています。
- 気候変動：気温および気象パターンの長期的な変化を指す。
- 気候：十分に長い時間で「平均した大気の状態」
- 気候も、より長い時間、規模で見れば変動しており、変動の要因や時間、空間規模には様々なものがある。

気候変動の主な要因



地球温暖化は人間の影響によるもの

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）報告書における、温暖化と人間活動についての評価では、「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させたことには疑う余地がない。」としている。IPCC第6次評価報告書 WG1 SPM（政策決定者向け要約）「A.1」>

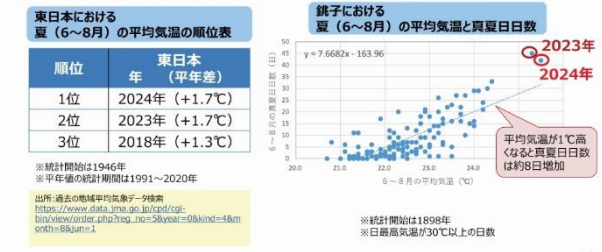


「平均気温」1℃の変動は大きい！

日々の気温では、「1℃」の変動は「たいしたことじゃない？」と思われ方もおられるかもしれませんが、でも実際には、...

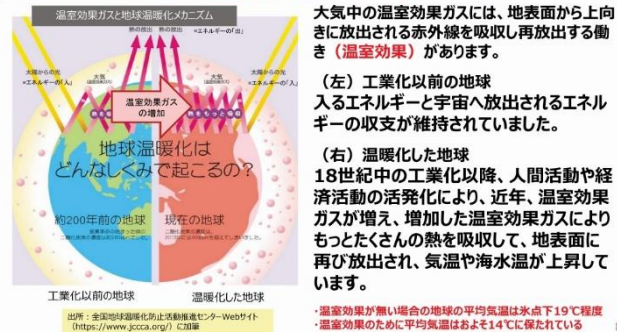
- 季節や年の平均的な状態に着目すると、「平均気温」の1℃の違いは大きい。
 - 平均気温が高いと、真夏日などの極端な高温の発生日数も明瞭に増加する。
- ↑ 日々の気温と長期間の平均気温では、変動の大きさが違ってくることに留意！

例えば、夏の平均気温に着目すると、...



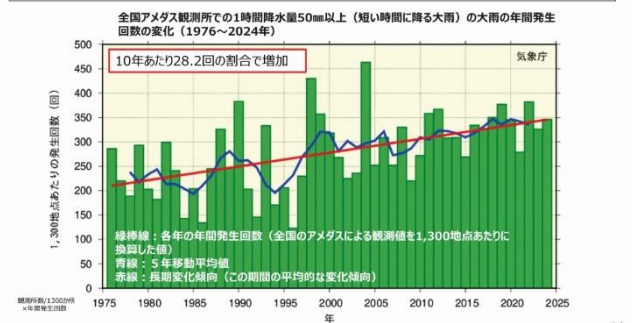
地球温暖化とは

地球温暖化とは、二酸化炭素などの温室効果ガスが増えていることにより、地球規模で気温や海水温が上がっている現象です。



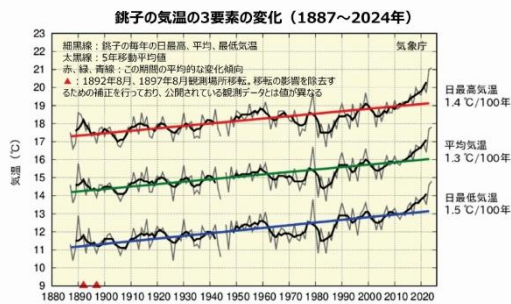
観測事実 全国のアメダス観測所における大雨の年間発生回数の変化

全国の1時間降水量（毎正時における前1時間降水量）50mm以上の大雨の年間発生回数は増加しています。最近10年間（2015～2024年）の平均年間発生回数（約334回）は、統計期間の最初の10年間（1976～1985年）の平均年間発生回数（約226回）と比べて約1.5倍に増加しています。



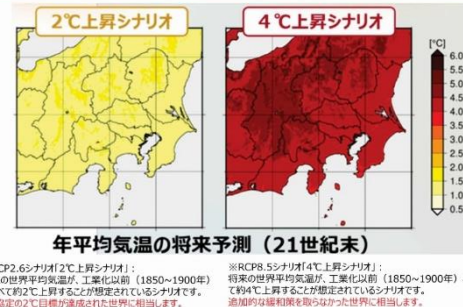
観測事実 銚子の気温3要素の変化

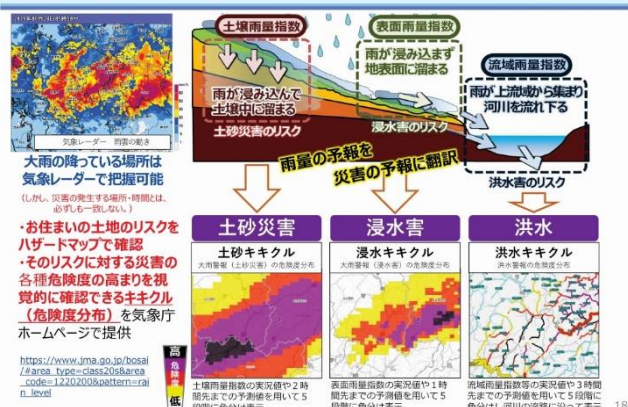
銚子の年平均気温の長期変化傾向（緑線）は、100年あたり1.30℃の割合で上昇しています。日最低気温の上昇が一番大きくなっています。



千葉県20世紀末（1980～1999年の平均）と比較した21世紀末（2076～2095年の平均）の予測

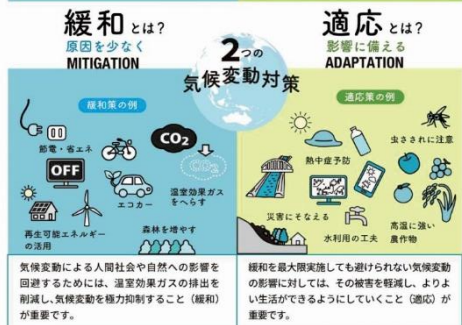
千葉県の年平均気温の予測（2076～2095年）において、「2℃上昇シナリオ」で約1.3℃、「4℃上昇シナリオ」で約4.1℃上昇する予測となっています（ともに千葉県平均。下図参照）。例えば、銚子の年平均気温の平年値は、15.8℃です。21世紀末に約4℃上昇するとした場合、現在の鹿兒島県の種子島の年平均気温（平年値19.8℃）に相当する気温になります。





【3階 気象台予報現場の見学】

- 気候変動は、地球規模かつ分野横断的な非常に大きな課題
- 政府一丸となって、「緩和」と「適応」の両輪で取り組んでいる



【隣接して設置されている露場の見学】
 地面からの熱を避けるために芝生を植え、
 安定した環境で気象観測を行う



雨量計



感雨器



【出席報告】 移動例会 100%

【M U】

5/24 次年度 8G 会長幹事会 淵岡君・高橋君
 5/24 RAC 年次大会 島田君・須永君



現千葉科学
 大学 RAC
 軽部さん(右)

元千葉科学大学 RAC
 高荷さん・木原さん
 現千葉マリン RAC・現大阪難波 RAC で
 活躍しています。
 年次大会参加者は総勢 130 名でした

次週（6月4日）プログラム
 「ガバナー補佐退任挨拶」
 第8グループガバナー補佐 伊藤 達裕様

お弁当：膳(幕の内)

